

令和7年度看護師交流会 「病院看護と地域看護をつなぐ」

日時：8月20日（水） ハイブリッド開催

内容：①講演「病棟看護師から訪問看護師になって」

講師：訪問看護ステーションはなえみ

看護師 久野 美折 氏

②講演「訪問看護での工夫困難事例への対応うれしかった瞬間エピソード」

講師：訪問看護ステーションはなえみ

看護師 中川 里美 氏

③グループワーク

「講演を受けて感じたこと。」

今後、病院看護師と訪問看護師で協働できること」

参加者：34名（委員5名含む） 会場22名、オンライン12名



今年度は、病院看護師（看護師職能Ⅰ）と訪問看護師（看護師職能Ⅱ）との交流会を開催しました。訪問看護師による講義をうけて印象的だったことは、「生活の場に根差した患者中心の看護」であることです。病気や障害を抱えながら、その人らしい暮らしを続けるため、思いや希望を尊重し支援していることをあらためて感じました。病院とは異なり、限られた医療資源を活かす工夫や、家庭にあるものを利用した過ごしやすい環境整備を行っていることも学びました。訪問中の限られた時間で生活状況から患者の身体変化や問題点を見つけ出す観察力は、まさにナイチンゲール『看護覚え書』にある「病人がどのように呼吸し、食べ、眠り、動き、排泄しているかを見て理解することが、看護の出発点となる」ことだと感じました。また、特定看護師が訪問することで、カニキュレ交換、在宅酸素利用者など医療的処置が必要な方の定期受診を減らし、負担軽減となることも知りました。

グループワークでは、住み慣れた自宅で過ごすことを支援するための協働について意見交換を行いました。全体共有では、患者支援に必要な情報を共有するために、サマリーの内容に対象者の性格・趣味・心配なことなどを追加することや、退院指導は地域で支援する看護師と指導内容に違いがないように予め確認した方法で指導することなど、実践につながる意見が出されました。治療環境にある病院から生活の場へ戻るまで、患者家族に合わせてスムーズにつなぐ方法を意識していく必要性を感じました。今後は、「退院後の生活」や「地域につながる視点」をもっと意識し、切れ目のない看護を提供していきたいと感じた交流会でした。

